



# 技術史教育

第88号

2011.10.30

Education for History of Technology

第88号 目次	阿波の文化と技術 …………… 英 崇夫(1)
	日本技術史教育学会2011年度全国大会開催案内 …………… 英 崇夫(2)～(3)
	お知らせ・理事会議事録・編集後記…………… (4)

【全国大会】

## 阿波の文化と技術



2011年度全国大会実行委員会

実行委員長 英 崇夫 (徳島大学名誉教授)

日本技術史教育学会の2011年度全国大会が徳島の地で開催されることについて、ご祝詞を申し上げます。また、この大会の実行委員長の役を仰せつかり、大変光栄に思っています。まずは、全国各地からお集まりいただき、四国阿波の国で技術史の研究討論をされることに対して、心から歓迎の意を表します。

県下を渦に巻き込んだ阿波踊りの夏も去り、秋の気配と共に、徳島では心地よい鈴の音を伴った老若男女の四国遍路の旅が再び始まります。四国は今から約1,200年前に弘法大師によって開かれた八十八箇所霊場巡りの地であることを、皆様もよくご存じのことと思います。阿波徳島には一番札所の霊山寺から二十三番札所の葉王寺までの23ヶ寺があります。阿波の国は「発心の道場」と呼ばれ、土佐の国の「修行の道場」、伊予の国の「菩提の道場」、そして讃岐の国の「涅槃の道場」に先だって、いよいよこれからお遍路まいりとの誓いを込めて巡り歩きを始めます。お大師様(弘法大師)と共に大自然の中を歩くことによって、八十八の煩惱の一つひとつ取り除きながら、心と身をみがき、自分自身を見つめ直す修行の旅が始まります。

藍染めについて

一番札所霊山寺から三番札所金泉寺を結ぶ撫養街道の南に吉野川と旧吉野川にはさまれた藍住町、そして徳島市内には藍場町などの藍にちなんだ名前の地名が残っています。藍で栄えた地方都市として、徳島は今なお藍で息づいています。

藍染めは江戸時代に全国で栄えた染色技法で、阿波藩はその原料である“すくも”の生産で全国有数の地でした。戦前には、徳島市の中心を流れる新町川のほとりに白壁の藍倉が建ち並び、川面に美しくその姿を映していました。吉野川の流域で生産された“すくも”がこの藍倉に集積され、船によって大阪をはじめ全国に運び出されました。戦後ヨーロッパの化学染料に押され藍の生産は衰退しましたが、一人の藍師によって藍の栽培が引き継がれ、いまなお藍の伝統が息づいています。

藍の若葉を発酵させて“すくも”を作り、それを水に溶かしてさらに自然発酵させたものが藍染めのいのちになります。藍瓶の中で養生したこの染液に糸や布を浸したあと取り出して空気に触れさせると“すくも”の成分が酸化して深い藍色が生まれます。素人にはとても説明することのできない自然の摂理とまた職人の技術が藍染めには脈打っています。

人形浄瑠璃について

阿波を語る時、もう一つのこと、すなわち阿波人形浄瑠璃を欠かすことができません。慶長年間初期に、当時阿波藩に属していた淡路で生まれたと言われる人形浄瑠璃は、義太夫節によって演じる3人遣いの人形劇です。明治初期から中期にかけては県内各地の農村舞台上で上演され、阿波の民衆の唯一の大衆娯楽として広がりました。

明治中期に絶頂期を迎えて県内では70以上の人形座があったと言われていたのですが、昭和になって映画の台頭で人形浄瑠璃も衰退し、農村舞台も途絶えてしまいました。昭和28年に財団法人阿波人形浄瑠璃振興会が結成され、徐々に復興し、その後、民俗文化財として見なおされるようになりました。人形を衣装箱に入れ地方の家々を回る箱廻しも復活しました。歴史を大切にしようとする人々によって、阿波人形浄瑠璃は日本の各地はもとより世界各国にその存在を示しています。

伝統文化、伝統芸能、伝統技術を語る時、常にその衰退の歴史をみることができます。新しくイノベーションが興るとき、それまでのものは必ず過去のものとしてどこかに埋没しますが、古き良きものを復活させることは昔の人々の知恵と努力をそこに見出すことができます。歴史研究は人間および人間生活の原点そのものを学ぶこととなります。歴史の上に私たちの生活が成り立っているということ、現代の若者にも伝えていきたいと思う気持ちが広がります。その意味で、日本技術史教育学会の皆様のお仕事に次世代をになう若い人々にも伝わっていくことを願ってやみません。

2011年9月

## 日本技術史教育学会2011年度 全国大会(徳島)開催案内

### 2011年度全国大会実行委員会

実行委員長 英 崇夫(徳島大学名誉教授)

日時:2011年11月5日(土), 10:00~20:50

場所:徳島大学工学部工業会館 2階メモリアルホール  
(徳島県徳島市南常三島町2-1:地図参照)

主催:日本技術史教育学会

共催:日本メカニズムアーツ研究会

### 【プログラム】

受付開始 10:00~

開会挨拶 10:25~10:30

2011年度全国大会実行委員長

#### 《研究発表講演会(1):科学史・工学史・技術論》

座長: 続木章三(徳島大)

- 1)10:30~10:50 生体熱科学小史ー生体機能と熱力学・電熱工学についてー ○田中明美(日本女子大)・上川井良太郎(同)
- 2)10:50~11:10 長野市三輪・美輪神社算額ー教養科目「数理と和算文化」で学ぶ江戸庶民の計算能力ー 田中道彦(元信州大)
- 3)11:10~11:30 設計とデザイン、設計者とデザイナーの相利共生ー技術の進化のための共生関係ー 佐藤建吉(千葉大)
- 4)11:30~11:50 開発途上国での技術支援ーお金(GDP)より幸福(GNH)の方が大切とするプータンでの道路整備 白井 一(特定非営利活動法人国際建設機械専門家協議会)

《昼食》 12:00~12:50

#### 《研究発表講演会(2):技術史教育・技術史》

座長: 田中明美(日本女子大)

- 5)13:00~13:20 実業教育制度史に関する研究ー青年学校と技能者養成ー ○佐野 浩(新潟経営大)・坂本 勇(元大阪産業大)
- 6)13:20~13:40 技術史からみた歯車数学ー「機構学」と「微分幾何学」から学ぶ機械技術史 田中道彦(元信州大)
- 7)13:40~14:00 ロボットを用いた佐渡金銀山坑道内探査 ○久間英樹(松江高専)・福岡久雄(同)・廣瀬 誠(同)
- 8)14:00~14:20 「からくり人形」復元の教育的意義ー『鞆鞆(しゅうせん)』復元についてー 続木章三(徳島大)

《休憩》 14:20~14:35

#### 《研究発表講演会(3):技術史》

座長: 佐野 浩(新潟経営大)

- 9)14:35~14:55 明治初頭の北信濃地域における製糸技術の変遷 白砂洋志夫(元清泉女学院大・短大)
- 10)14:55~15:15 技術史研究における技術者研究ー研究内容と意義についてー ○堤 一郎(元職業大)・池森 寛(西日本工大)・緒方正則(関西大)

#### 《特別講演》15:30~16:30

座長: 原口雅宣(徳島大)

(仮)「GaN系LEDの歴史」

向井孝志(日亜化学工業(株) 取締役)

《交流会》 17:00~19:00 交流会

《阿波踊り見学》 20:00~20:50 阿波踊り会館

《見学会》 11月6日(日)「藍の館」見学と「藍染め」体験、「阿波十郎兵衛敷」の人形浄瑠璃見学他

◎参加定員は20名限定とします。

【参加費】 大会参加費 2000円

昼食代(11/5) 1000円程度

交流会等参加費 6000円程度

(阿波踊り見学費を含む)

見学会参加費 6000円程度

(昼食代・入館料・保険代等を含む)

【参加申込方法及び期日】 参加申込書(別紙)に必要事項を記載し、下記申込先宛に封書または

FAXでお送りください。参加申込締切期日は、

2011年10月24日(月)17:00事務局必着(厳守)。

見学会準備と参加者名簿作成のため申込期日厳守に御協力ください。

【宿泊先】参加者ご自身でお手配ください。

【申込先】113-0034 東京都文京区湯島1-12-5 小安ビル6階 (株)プラスワン気付 日本技術史教育学会事務局2011年度全国大会(徳島)実行委員会宛

FAX: 03-3835-2494

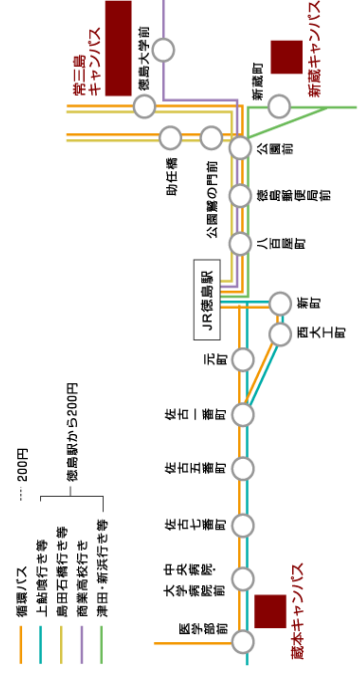
【会場案内】地図をご参照ください。

【実行委員会連絡先】〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町2-1 徳島大学工学部創成学習開発センター 続木章三 TEL: 088-656-8236 内線9970

E-mail: tsuzuki@ip.tokushima-u.ac.jp

【実行委員会】英 崇夫(委員長:徳島大)・続木章三(徳島大)・白砂洋志夫(元清泉女学院短大)・緒方正則(関西大)・堤 一郎(元職業大)

【徳島大学交通案内】



この建物の2階メモリアルホールです。



- 徳島駅より徳島市営バス「島田石橋」行、「商業高校」行外に乗車し、「助任橋」又は「徳島大学前」下車徒歩5分
- 徳島空港リムジンバスで徳島駅前行き徳大前下車バス乗車時間20分程度

## 【 新入会員紹介 】

□ 中里健太(埼玉県)

個人情報につき、氏名・居住地のみ掲載(敬称略)

## 【 前号掲載内容の訂正 】

前号(第87号)に同封致しました「2012機械設計・機械技術史国際会議(台湾)」の論文使用言語ですが、「論文は英文アブストラクト(200ワード以内、キーワードは5つ程度)を付け、和文または英文で作成。」と致します。

## 【 書籍紹介 】

- ◇ 信濃の橋刊行会, 信濃の橋百選, 信濃毎日新聞社, (2011), 1680円, ISBN978-4-7840-7166-1
- ◇ 後藤・小野田・二村: 日本の美術, No.545, 近代化遺産 交通編, ぎょうせい, ISBN978-4-324-08965-1, 1762円(本号で休刊、最終号)
- ◇ 鈴木賢治, 技術史教育学序説, 合同出版, (2011), 1800円, ISBN978-4-7726-1041-4

## 【 関西支部連絡 】

関西支部2011年度 総会・研究発表講演会の研究発表を募集します。

- ◆ 開催日時: 2012年3月11日(日)10:30-17:30
- ◆ 開催場所: 大阪産業大学 梅田サテライト教室(JR大阪駅前第3ビル19階)

### ◆ 研究発表講演の申込方法

- ① 講演者名(登壇者は会員で、氏名の前に○印を付ける)、および所属名。
- ② 主題(タイトル)、副題(サブタイトル)。講演題目の変更は不可とします。
- ③ 講演者連絡先(住所・TEL/FAX・メールアドレス)
- ④ 講演発表時の使用機器(OHP・書画カメラ・パワーポイント等。PCは原則として各自で持参)

上記の①から④までをA4判用紙に記載し、封書で下記宛て郵送してください。受付時の手違いを防ぐため、申込は「郵送のみ」とさせていただきます。

- ◆ 発表申込締切: 2012年1月6日(金)必着。
- ◆ 発表原稿締切: 2012年2月17日(金)必着。
- ◆ 申込先: 〒565-0803大阪府吹田市新芦屋下1-37 JSEHT関西支部 幹事 緒方正則 宛

※見学会は2012年3月10日(土)に開催します。詳細はニューズレター第89号でお知らせします。

## 【 他学会情報 】

◇ 産業考古学会2011年度全国大会を11月19日(土)～20日(日)に熊本県の熊本学園大学で開催予定です。詳しくはホームページをご覧ください

<http://jias.o.oo7.jp/index.html>

◇ (社)日本設計工学会と(社)日本機械学会 技術と社会部門が共催する講演会(一技術と社会の関連を巡って:過去から未来を訪ねる一)と見学会が、11月19日(土)～20日(日)に沖縄県の琉球大学で開催されます。詳細は間もなくホームページに掲載されます。 <http://www.jsme.or.jp/tsd/>

## 【 理事会議事録 】

### ◆ 第159回理事会

日時:2011年7月31日(土),16:00～18:00,場所:キャンパスイノベーションセンター(田町),出席者: 白井・大河内・緒方・佐藤・堤・平野

議題 0) 前回(第158回)議事録承認,1)各部門報告<総務、編集(学会誌、ニューズレター編集関連)、企画(2011年度総会報告,2011年度全国大会関連)>,2) 日中国際会議(2012)に関して,3)その他,4)次回理事会:2011年8月27日開催予定

### ◆ 第160回理事会

日時:2010年9月25日(土),16:00～18:00,場所:キャンパスイノベーションセンター(田町),出席者: 白井・大河内・緒方・佐藤・堤

議題 0)前回(第159回)議事録承認,1)各部門報告<総務(会員動向,東日本大震災罹災者への対応,会費未納者への対応)、編集(学会誌編集進捗状況,ニューズレター編集関係)、企画(2011年度全国大会に関して)>,2)関西支部2011年度総会に関して,3)日中国際会議(一部略)に関して,4)15周年記念事業に関して,5)その他,6)次回理事会:2011年10月1日開催予定

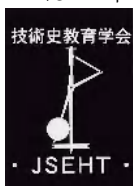
## 【 編集後記 】

前号(第87号)ニューズレターでご案内いたしましたように、新潟県三条市で全国大会を開催する準備を進めてまいりましたが、7月末の豪雨災害による影響で急遽徳島県の徳島大学へ会場を変更し、開催に至りました。阿波踊り・人形浄瑠璃など伝統文化の見学や藍染の体験なども予定しております。皆さま多数のご参加をお待ちしております。(穂積洋一)

日本技術史教育学会ニューズレター 第88号

2011年 9月30日 印刷

2011年10月 5日 発行



## 技 術 史 教 育

Education for History of Technology

発行者  
編集

日本技術史教育学会 会長 白井 靖 幸  
日本技術史教育学会  
(株) プラス・ワン気付 日本技術史教育学会 事務局  
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F  
TEL/FAX: 03-3835-2494  
E-Mail: [jseht@nifty.com](mailto:jseht@nifty.com)